

「浜松まつりと気象について」

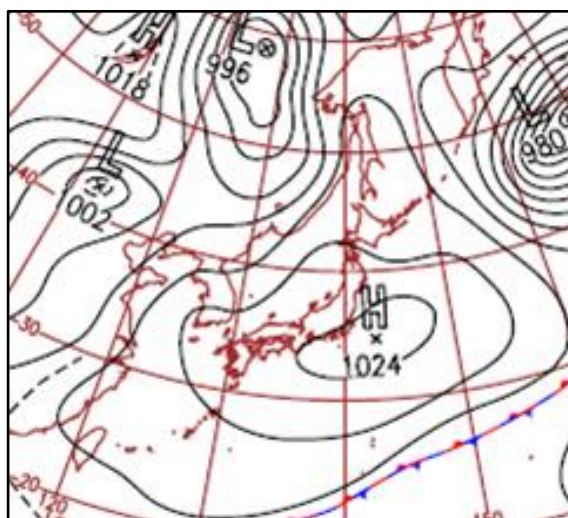
【第13回】浜松まつりと気象について

現在、放送中のNHK大河ドラマ「どうする家康」効果も相まって、浜松市は注目の的となっています。浜松市では、毎年5月3日～5月5日の3日間で「浜松まつり」が開催されています。端午の節句にちなみ、初子の誕生を祝う浜松市伝統の「浜松まつり」は、昼間に子供の健やかな成長を願う凧揚げが中田島砂丘で行われます。夜には町内会ごとに準備した御殿屋台の引き回しが行われます。町内会の方々が地区ごとに異なる半被を着こなし、ラップの演奏とともに引き回される屋台は見応えがあり、とても魅力的です。



(左写真：凧場の様子 右写真：御殿屋台の外観 浜松市ホームページより引用)

5月の気象特性をみてみると、移動性高気圧が帯状となり、その中心付近は太平洋側に位置するため、浜松市は高気圧圏内となり晴天が持続する日が多くなります。平均気温についても19℃と比較的に過ごしやすい季節です。



(上図：5月期の代表的な気圧配置 気象庁ホームページより引用)

浜松まつりの凧揚げは10時～15時の間で行われます。この時間帯の風は、西寄りの風10KT (5m/sec)程度が安定して吹く特徴があります。凧揚げ会場(凧場)の中田島砂丘は遠州灘海岸に面し、内陸と比較すると、やや風が強くと吹く傾向にあります。たくさんのカラフルな凧が見事に揚がる光景は一見の価値があります。

なお、一般的に凧揚げに適した風は、下表の「風力階級 3」に該当します。

「風力階級 6」になると、特別な場合を除いて凧揚げをしない方が無難とされ、「風力階級 7」以上に該当する風が観測された場合は、凧揚げは危険とされています。

風力階級	m / s e c	陸上の状況
1	0.3~0.5	煙がたなびくが風向計での計測はできない
2	1.6~3.3	顔に風を感じる、木の葉が動き風向計での観測が可能
3	3.4~5.4	葉っぱが絶えず動いている。軽い旗がはためく
4	5.5~7.9	ほこりが舞い上がり、木の枝が動く
5	8.0~10.7	小さな木がゆり動く、水面にさざ波が立つ
6	10.8~13.8	大きな枝が動き、電線がうなる
7	13.9~17.1	木全体がゆれ、風に向かって歩くのが困難になる
8	17.2~20.7	木の枝が折れ、立っているのが困難になる

5月3日～5月5日における過去30年の平均風向風速のデータは下表のとおりです。

観測日	風向	平均風速
5月3日	西風(280度)	7.3KT (3.7 m/sec)
5月4日	西風(280度)	7.0KT (3.5 /sec)
5月5日	西風(270度)	6.8KT (3.4 m/sec)

※浜松基地の風速データ

表からみてわかるように、安定した西風(3.4~3.7m/sec)を観測しています。今年の浜松まつりでは、大河ドラマ「どうする家康」の出演者が参加する「家康公騎馬武者行列」が浜松市中心部で実施されるようです。コロナ感染拡大防止に伴う行動制限が緩和されつつあり、観光における行動範囲を広げてみようと考えている方や浜松まつりに興味を持たれた方は気象情報を確認し、大型連休中の行楽として足を運んでみてはいかがでしょうか。